

運航中止基準

カーフェリー運航中止基準

船名 (総トン数)	風 速	波 高	視 程
おけさ丸・ときわ丸 (3,000 トン以上)	20m/s 以上	5.0m 以上	500m 以下
こがね丸 (3,000 トン未満)	18m/s 以上	3.0m 以上	500m 以下

ジェットfoil運航中止基準

船名	風 速	波 高	視 程
ぎんが つばさ すいせい	18m/s 以上	3.0m ※(2.0m) 以上 ※夜間航行	500m 以下

救命設備等の設置状況

1. 救命設備（旅客船）

船名	救命胴衣		救命浮環	膨張式救命筏	膨張式救命浮器
おけさ丸	大人用	1854 個	6 個	25 人用×45 基	42 人用×17 基
	小児用	172 個			
	幼児用	43 個			
ときわ丸	大人用	1620 個	6 個	—	42 人用×39 基
	小児用	150 個			
	幼児用	38 個			
こがね丸	大人用	617 個	6 個	—	42 人用×15 基
	小児用	58 個			
	幼児用	16 個			
ぎんが つばさ	大人用	249 個	4 個	50 人用×2 基	55 人用×4 基
	小児用	27 個			
	幼児用	7 個			
すいせい	大人用	251 個	4 個	50 人用×2 基	55 人用×1 基 42 人用×3 基
	小児用	27 個			
	幼児用	7 個			

2. 緊急時の通信手段

船名	衛星電話	保安無線	業務無線	携帯電話	AIS
おけさ丸	○	○	○	○	○
ときわ丸	○	○	○	○	○
こがね丸	○	○	○	○	○
ぎんが つばさ すいせい	○	○	○	—	○
日海丸（貨物船）	○	○	○	○	○

教育・訓練の実施状況

1. 防火・退船操練

毎月、船員法で定められた、操練（防火・退船・防水）を実施し、非常時における乗組員の危機対応能力の向上に取り組んでいます。

2. 関係機関との合同訓練

定期的に関係機関と合同で、海上漂流物に衝突し自力航行不能を想定した巡視艇によるえい航訓練、機動救難士降下訓練および怪我人のヘリコプターへの揚収訓練を実施しています。

3. 事故処理訓練（非常無線通信訓練）

船舶と陸上支店間の、航海中に事故が発生した場合における情報伝達体制及び事故処理について、無線による情報伝達訓練を毎年1回以上実施しています。

4. テロに関する自主警戒体勢に基づく訓練

船内に不審物が置かれた状況を想定し、緊急事態発生時の対処方法についての訓練・教育を1年に3回実施しています。

5. 救命訓練

船内及びターミナル待合室にAEDを設置し、旅客担当の船員および陸上係員、陸上現業職員を中心に、緊急時の処置が速やかに出来るよう、消防署職員の指導による普通救命講習を3年に1回受講しています。

旅客への補償

当社では船内でお客様に万が一の事案が発生した場合に保障できるように、最高保障金額3億円の船客障害賠償責任保険に加入しています。